

ニ因リテノミ之ヲ申立ツルコトヲ得但當事者カ自己ノ過失ニ非スシテ前手續ニ於テ取消ノ理由ヲ主張スル能ハサリシコトヲ疏明シタルトキニ限ル

(解) 仲裁判斷ノ取消ヲ求ムル訴ニ付テハ一定ノ期間ナシ從テ何時ニテモ此取消ノ訴ヲ起スコトヲ得ルヤ明カナリ然レトモ執行判決以後ハ其判決以前ト異ナリ此訴ヲ起スコトヲ得サルヲ原則トス唯例外トシテ第八百一一條第六號ノ理由ニ付テハ自己ノ過失ニ非スシテ前ノ手續ニ於テ主張スルコトヲ得サリシトキニ限り取消ヲ申立ツルコトヲ得ルナリ此場合ニ限り其取消ヲ申立ツルコトヲ得ル理由ハ當事者ニ於テ仲裁判斷後執行判決前ニ其原因アルコトヲ知ラサルヲ以テナリ

第八百四條 仲裁判斷取消ノ訴ハ前條ノ場合ニ於テハ一个月ノ不變期間内ニ之ヲ起ス可シ

右期間ハ當事者カ取消ノ理由ヲ知リタル日ヲ以テ始マル然レトモ執行判決ノ確定前ニハ始マラサルモノトス但執行判決ノ確定ト爲リタル日ヨリ起算シテ五ヶ年ノ滿了後ハ此訴ヲ起スコトヲ許サス

仲裁判斷ヲ取消ストキハ執行判決ノ取消ヲモ亦言渡ス可シ

(解) 凡ソ前條ノ場合ニ基キ仲裁判斷取消ノ訴ヲ提起セントスルニハ一ヶ月ノ不變期間内ニ於テ爲サトル可ラス不變期間トハ原告被告ノ合意等ニ依リ隨意ニ伸縮スルヲ得サル期間ニ外ナラス此期間ハ當事者ニ於テ仲裁判斷取消ノ原因ノ存スル日ヲ知リタルトキヨリ進行ヲ始メ執行判決ノ確定前ニハ進行セサルモノトス但執行判決ノ確定日ヨリ起算シテ五ヶ年ノ滿了後ハ此訴ヲ提起スルコトヲ得ス其故如何トナレハ五ヶ年ノ滿了後ニ至ルモ尙ホ此訴ヲ起スコトヲ得ルモノ

トセンカ永久確定ノ時期ナキノミナラズ或ハ證據ノ埋滅社會ノ遺忘等ノ爲メ到底仲裁判斷取消ノ訴ヲ審理スルコト能ハサルノ状態ニ陥レハナリ

仲裁判斷取消ノ訴ヲ判決シタルトキハ本條第三項ニ依リ之ト同時ニ執行判決ノ取消ヲモ言渡サトル可ラス蓋シ仲裁判斷ハ根幹ナリ執行判決ハ枝葉ナリ既ニ執行判決ハ枝葉タル以上ハ其根幹タル仲裁判斷ニシテ取消サレタル場合ニハ之ト同時ニ亦取消サルコトヲ理ノ當ニル可キ所ナレハナリ

第八百五條 仲裁人ヲ選定シ若クハ忌避スルコト、仲裁契約ノ消滅スルコト、仲裁手續ヲ

許ス可カラサルコト、仲裁判斷ヲ取消スコト又ハ執行判決ヲ爲スコトヲ目的トスル訴ニ付テハ仲裁契約ニ指定シタル區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄シ其指定ナキトキハ請求ヲ裁判上主張スル場合ニ於テ管轄ヲ有ス可キ區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄ス前項ニ依リ管轄ヲ有スル裁判所數箇アルトキハ當事者又ハ仲裁人カ最初ニ關係セシメタル裁判所之ヲ管轄ス

(解) 本條ハ仲裁手續ニ關シテ起ル事項ヲ目的トスル訴ニ於ケル裁判所ノ管轄ニ付テ規定セリ即チ仲裁人ヲ選定シ(第七百八十九條第二項及)若クハ仲裁人ヲ忌避(第七百九十二條)スルコトヲ目的トスル訴、仲裁契約ノ消滅ヲ目的トスル訴(第七百九十一條ノ場合)仲裁手續ヲ許ス可カラサルコトヲ目的トスル訴(第七百九十九條)仲裁判斷ヲ取消スコトヲ目的トスル訴(第八百一十三條)又ハ執行判決ヲ目的トスル訴(第八百二條及)等ニ付テハ專屬裁判所ナルト否トヲ論セス仲裁契約ニ指定シタル區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄シ唯其指定ナキトキハ請求ヲ裁判上主張スル場合ニ於テ管轄ヲ有ス可キ區

裁判所ナリトス

然レトモ管轄チ有スル裁判所カ二個以上ニ跨ルトアリ斯ル場合ニ於テハ何レノ裁判所之ヲ管轄ス可キヤノ疑惹起スルノ虞レアリ是ニ於テ乎本條第二項末段ハ「當事者又ハ仲裁人カ最初ニ關係セシメタル裁判所之ヲ管轄ス」ト規定シ以テ世人ノ疑惑チ氷解セシメタル所以ナリ

附 錄

民事訴訟法施行條例

(明治二十三年七月法律第五十號)

朕民事訴訟施行條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

第一條 民事訴訟法實施前ニ提起シタル訴訟ニ付テノ爾後ノ訴訟手續ハ民事訴訟法ニ依リテ之ヲ完結ス

第二條 民事訴訟法實施前ニ闕席ノ儘言渡シタル裁判ニ對シテハ民事訴訟法ニ依リ故障ヲ申立ツルコトヲ得

故障ノ期間ハ新法ニ依リ其實施ノ日ヨリ起算ス但其期間カ舊法ノ控訴上告期限ヲ超過スルトキハ其期限ニ從フ

第三條 民事訴訟法實施前ニ言渡シタル裁判ニ對スル控訴上告期限ハ新法ノ控訴上告期間ニ依リ其實施ノ日ヨリ起算ス但其期間カ舊法ノ控訴上告期限ヲ超過スルトキハ其期限ニ從フ

第四條 民事訴訟法實施前ニ確定シタル裁判ニ對シテハ民事訴訟法ニ依リ再審ヲ求ムル訴ヲ爲スコトヲ得但民事訴訟法實施前ニ再審ノ條件生シタルトキハ其條件ノ生シタル日ヨリ再審ノ期間ヲ起算ス

第五條 民事訴訟法實施前ニ言渡シタル裁判ノ強制執行ハ民事訴訟法ニ依リテ之ヲ完結ス但シ既ニ身代限ノ揭示ヲ爲シ又ハ公賣ニ著手シタル事件ハ其手續ノ終マテハ舊法ニ從フ

第六條 民事訴訟法實施前ニ言渡シタル裁判ノ執行命令ヲ得ザル場合ニ於テ民事訴訟法第四百九十九條ノ規定ニ從ヒ證明書ヲ要スル者ハ其訴訟記録ノ存在スル裁判所ニ求ムルコトヲ得

第七條 民事訴訟法實施前既ニ勸解ヲ出願シ未タ完結ニ至ラサル事件ハ民事訴訟法第三百八十一條ノ規定ニ從ヒ區裁判所繼續シテ之ヲ完結スルコトヲ得

第八條 民事訴訟法ノ規定ニ依リ市町村長ノ爲ス可キ職務ハ市町村長ヲ置カサル地ニ在テハ職務ヲ行フ吏員ニ屬ス

第九條 民事訴訟法ニ於テ親族ト稱スル者ハ當分ノ内刑法ノ親屬例ニ依ル

第十條 婚姻離婚及養子ノ縁組離縁ニ關スル訴ニ付テハ特別ノ慣例アルモノハ當分ノ内其慣例ニ從フ

第十一條 明治八年第六號布告ハ當分ノ内其效力ヲ有スルモノトス

第十二條 明治十年第十九號布告控訴上告手續第十六條中大審院トアルヲ上告裁判所ト改メ該條ハ當分ノ内其效力ヲ有スルモノトス

實例
參照

民事訴訟法正解

終

便郵ハ節ノ用入御録日書圖行發店樊 (意注)

全 明治三十三年十月十五日印刷
年十月二十日發行

不許
複製

發行所
賣捌所

東京市日本橋區
鐵砲町參番地

柳原文盛堂
各府縣同業書肆

校閱者	著作者	發行者	印刷者	印刷所
法學博士 鳩山和夫	三輪富十	東京市日本橋區鐵砲町參番地 柳原友吉	東京市神田區小川町一番地 多田榮次	東京市神田區小川町一番地 愛善社

民事訴訟法正解奧附一

候仕可送發 = 直バハ候下被附送御錢二手切



